

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)	在宅での生活を含め、24時間の生活を支える支援である事の共通の理解と方向性がまだ不十分な事がある。看護・介護それぞれの専門性を活かし、協働して取り組む事が必要。スタッフの育成においても、重度者に対するケアの統一も不十分。働く環境においては、定期的な面談は行っている。	利用者さんのケア会議を行っていく中で、「看多機とは…」と考えながら、支援の内容を決めていく。研修への参加も機会があれば参加を促す。自己学習含め、学んだ事を現場で共有。する。安心して働ける環境作りの為、定期面談以外でも話せる関係・雰囲気を作る。	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~27)	利用者、家族のニーズで意向含め計画はされているが、24時間の暮らしへの着目・在宅支援の取り組みについては、捉え方が統一されておらず、ケアをお行う上で不十分な所がある。情報共有は紙面・口頭でおおよそ出来ている。看護・介護共に専門的要素も含めて、多角的視点からの情報発信と共有が必要。	定期的にケア介護を行い、事業毎、参加は出来る限り全員に参加してもらい、それぞれの意見を持って進める。利用者一人一人の方向性を統一し、ケアの在り方も看護・介護それぞれの視点から意見を出し合い、共有していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28~31)	入退院時・受診時などでの医療との関わりは、もちろんながらそれ以外でも訪問し、医療的ニーズの聞き取りと事業所側の利用状況等の情報発信も行っていく必要がある。看多機として、看護面に加えて介護側からも伝える事もあると思うので、お互いに共有しながら伝えていく。	病院では石・看護師以外でも地域連携室との関わり、他にもケアプランセンターや地域包括支援センターとの関わりも訪問して作っていく。多機関・多職種での研修にも参加し、地域の情報共有や交換を行う。対応スタッフに偏りがないよう、指導しながらも職員全体的に参加できるようにし、スキルアップを図る。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	月6回のサロン活動で地域との関わりは出来ているが、学習会の内容等は、地域の方が「何を知りたいのか？」を知った上で今後も継続する必要がある。また、なかなか自分から事業所へ足を運べていない方々に対する取り組みも必要。医療ニーズも今後積極的に取り入れ、地域密着型の事業所としての在り方が問われる。	地域の方々の知りたい事、介護などについて、生活において不安や不満も含めニーズを知り、学習会学習会に活かしていく。年間で計画し、事業所スタッフが行う事で、スタッフにも地域の事を知ってもらおう。地域の自宅訪問の仕組みも作り、関わりを持ち相談しやすい環境を作る。困り事には看護・介護共に、互いの知識を活かし対応する。
III. 結果評価 (評価項目 42~44)	現利用者さんの中でも医療ニーズはまだ少なく、看取り支援の経験もまだ少ない。だが、福祉施設として、どう医療に関わっていくのかの視点・看取りに対するの考えと取り組み方については、知識・理解などでバラつきがある。	病院ではなく、在宅で支えるケアとして、看護(医療面)でどう支援・ケアが必要なのか、捉え方を統一していく。まずは、看多機で取り組んでいく為の共有の認識が必要。看取りに対してもCPRを理解した上で、関わり方・支援の在り方を看護・介護共に学習、研修を通して学び好きアップを行う。	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します